

学校を開くってどういうこと？

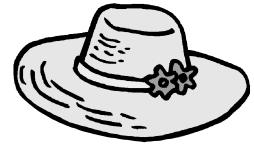
- 子どもが小学校に入って3年目。だんだん気がついてきたのは、PTAのあり方が大問題。それと、教育基本法が変わって、教育関連法案も通ってしまって、そういうことに現状はなりつつあるということ。子ども同士のトラブルは子ども同士で十分解決できると思うけど、親が出てくる。懇談会の席上で相手の子の親に謝罪を求めたり…。子どもとちゃんと向き合えていない教師もいる。クラスの子どもの問題を教頭へ持ち込んでしまう。
- 今まで普通学級へ行っていた子どもたちの中でも、特別学級を勧められる子が出てきている。クラスでその子と一緒にやっ行ってこうという雰囲気なくなっている。その子も担任の先生も責めずに、どうしたら皆と一緒にやっていけるかを考えた方がいい。学級懇談会を学期に3回位開いて考えあった。その一方で、PTAの運営委員会で補助教員を学校側に求めたが、いまだに実現していない。教育行政自体が成り立っていない。
- どんな人でも皆一緒に暮らしていけるように、そのための基盤整備をするというのが、今の社会全体の流れなのに。
- そういう条件整備をして、そしていろんな子どもたちを受け入れていくというのではなく、いろんな障害を持った子どもたちが来てから、どうしようとやっている。それではその子も傷つくし、まわりも傷つく。
- うちの学校でも「特殊学級へ入れたら」と先生に言われた子がいた。ちょっとテンポが遅いとか、反応が遅いとか、その程度の事で言われてしまう。
- いろんなペースの子、いろいろな違いを持った子どもを受け入れる余裕がない。あらかじめ一定のスピードがあって、皆がそれについて来いという感じ。親もわが子がそのスピードについていかれないと、子どもがかわいそうと思ってしまう。そういうゆったりとしたスピードにあわせてくれるところへ行ったらいいと思ってしまう。
- そんな中で命の大切さや思いやりと言ったって、矛盾している。
- 子どもも大人も、異質な中で育たないと、本当の優しさは育たない。
- 何か事件が起きると、すぐ調査・報告しろと来るけど、そんな余分な教員いない。もっと先生がいてくれたらもう少し余裕ができる。ギリギリのところで行っているから、少しでも手のかかることは排除したい。
- 松戸版教育改革の中で、特別支援教育のためのスタッフ派遣というのをやっていたはずだが…。



学校選択制によって、人気のある学校と人気のない学校が出てきた

- いじめや傷害事件があったというような噂で、学区の中学校へ半分も入学しないというような状況が出てきている。校長先生は「ぜひ来てほしい」というアピールを一生懸命していた。

- 今年も中学校一校で、学校選択制で希望する子どもが多くて抽選になった。
- 人数が減った中学校では、逆に落ち着いたとも聞きますよ。少人数学級が実現したみたいになって…。
- 一度風評が立つと、親の間で尾ひれがついて、なかなか消えない。
- 大規模校が増えてきている。8月の教育委員会会議では、高木第二小と六実第三小、四中と六実中の学区の一部変更が話し合われたようだ。



- うちの小学校は給食が民間委託なのだけれど、レベルがとて下った。間違いが多いし、数が足りなくて、何回給食室まで往復したか。焦げたスープが出たり…。
- 民間委託でなかったら、栄養士の先生が新米だろうが、ベテランの調理師さんがいて、一緒に補い合って質を保てたのではないか。民間委託だと、栄養士の先生は一人ひとりの調理員に直接指示を出すのではなく、リーダーのみとやり取りするから、お互いにフォローしあうことは難しい。

1. 高木第二小	29 学級	943 名
2. 根木内小	27 学級	877 名
3. 柿の木台小	26 学級	872 名
4. 牧の原小	25 学級	806 名
5. 相模台小	24 学級	777 名
6. 上本郷小	24 学級	771 名
(平成 19 年 5 月 1 日現在)		

- 学校選択制によって、人気のある学校・人気のない学校が出てきたという弊害もありますが、同じ町会でも子どもの通っている学校が違うということが出てきている。地域のつながりへの影響はどうか。今、盛んに使われている「モンスターペアレント」という言葉、学校にクレームばかりつける親が増えてきたとマスコミで言われるようになって来た。「何を今さら！」という気がします。親と子どもに「いい学校を選びなさい」と、ある意味消費者にしてしまった。消費者だったら、商品やサービスに問題があったら、文句を言うのはあたりまえ。学校と親の関係をそういうものにしてきたのは学校選択制なのではないか。
- 東京の場合は学校選択制と統廃合がセットになっていたから、学校だけでなく地域の人たちも大変。入学者数が減って地域の学校がなくなってしまったら、地域にとっても大問題。町会やPTAも皆一緒になって、地域の学校の良いところをアピールして、新入生獲得のために必死になっていた。そうでないと廃校になってしまう。
- 子どもがいらないから廃校なのではなく、廃校する学校を作り出していく。
- 足立区で新入生が10人に満たない学校があったが、子どもがいらないわけではない。その学校に来ない子はどうしているかというと、電車に乗って他の学校へ通っている。
- そこへ学力テストの結果を公表すれば、また結果の良い学校へなだれ込んでいく。
- 学力テストで不正が行われて問題になったけれど、結局そこへ行きついてしまう。
- その結果で予算が決まってしまうのだから、学校としては必死になるのはあたりまえ。
- 校長だって自分の評価につながってしまうからね。
- そういう実態なのに、きれいごとを言う。学校選択制で親と子どもが自分の意思で学校を選んだのだから、学校と一緒に作ろうという協力を積極的にしてくれるだろうと。「開かれた学校づくりのために、皆さんの意見を反映してやっていきます」と。実を言えば、

異質なものを排除したり、コミュニケーションをとる余裕もないし…。

親・地域の人たちが望む学校って、どんなところ？



- まず単純に、地域にある学校だから行く。
- うちの地域は、私立中学受験志向の強い地域。新自由主義を認めている・望んでいる親が多いのも事実。
- 全国学力テストの問題点を指摘しても、学力テストを肯定する人も多い。
- 自分の子どもにどう育てほしいんだろう？ 公立中学だと十分な教育が受けられないから私立の学校へと考えるのだろうか？
- 誰だって自分の子どもには十分な教育を受けられる環境にいてほしいと願っている。その時に、今の公立学校がそういう学校になっていないとき、私立学校を選ぶ。でも選べない人は？ そうすると自分の子どもだけが十分な教育を受けられれば良いという、そういう考え？
- 高校受験で苦勞させたくないから、中学から私立へと考えるのではないか。それと英語教育に差がついているのが大きいのではないか。土曜日休みではない私立学校が多いし。
- 公立学校も土曜休みをやめてほしい。先生方の週休2日制は、平日に交代で休みをとるという方法でやれば問題ない。
- 全国的に制度として先生方がシフト制で休むということにすればいい。
- 社会科の授業、週に2時間しかない。教えきれないから、子どもたちに自分で選ばせて調べさせるんだって。日本地図や世界地図を見て、都道府県や国の名前を教える時間はない。国名や県名、一般常識として知っていてあたりまえだと思うけど、いったいどこで覚えるのか。家庭教育しかない。
- 美術や音楽などの教科も週1時間しかない。
- 基礎・基本は絶対身につけさせてほしい。
- 学力低下の問題を解決するために、授業時数を増やせば、それで済むのか。どういう力を子どもたちが身につければいいのかという、共通認識もない。

対等なところで、子どもたちが考えたことを表明し、親と教師がバックアップしていく

- 昔、県立高校で制服廃止運動に取り組んだ方に会ったのですが、生徒たちが自ら取り組んだということでした。そういう生徒達の自主的な取り組みというのは中学でも可能だと思うのですが。
- やっていますよ。子どもたちの自治力をつけるということで頑張っていた先生たちがいた時は、学校に来たらすぐジャージに着替えなくてもいられるというようなことを生徒総会まで持っていった。常に生徒会を中心に話し合いでやってきたけど、今は先生が中心になっている。
- 親も参画して、子どもとよく話し合っ、そういうところから親・子ども・学校とつながって行って、風通しのいい話し合いができないかなあと思います。
- 高校だと、生徒・教師・保護者の三者協議会があるところがありますね。そういうことが

本当に私たちの願う開かれた学校のかたち。対等なところで、子どもたちが考えたことを表明し、それを親と教師がバックアップしていく。

- 子ども・親・先生で、本音で語り合う場を持って、それを広報に掲載しようと提案しているのですが…。小学校ではできたんですよ。喜多明人さんのゼミの学生さんたちに来てもらって、親と子に分かれて、言いたい放題やりました。結構いろいろな意見が出てきました。思ったことをきちんと組み立てて言える子どもになるということは、それだけ自治力もついていきますし、自立にもつながるし、やるべきだと思う。
- 地域に開く、保護者に開くといいますが、子どもたちに開かれた学校になっていません。
- 開いているというのは、町会長とか民生委員とか呼んで話をするだけで、決して開かれてはいない。
- 開くということは、学校で何かをしよう決めるところに、子どもも親も地域の人も参加できるということ。
- 学校の教育方針などを決めるところには全く参加できない。
- 学校評議員制もどんな話をしているのか、その内容が見えてこない。
- 教育改革の時だって、学校は説明しようとして全くしなかった。それすらオープンにしないのに、開かれた学校なんてできるわけない。

履き違えた学校の開き方をして、子どものことが抜けてしまっている



- 「開かれた学校」という時は、地域の人や保護者の力を借りたい時だけ？
- パトロールにペンキ塗り、ウサギの世話に図書を読み聞かせや図書室の整理、そのほか全部で7つ位、学校から言われている。
- うちの窓拭きもある。草むしりも。校庭の美化。
- P T Aがそれまで必死に阻止してきたことをなぜひっくり返すのか。聞いてみたら、最初は予算。ペンキ代がない、苗を買うお金がない、学校長が予算不足を嘆いて愚痴をこぼす。それにP T Aの役員が「それならうちでやります」と答えてしまう。
- こんなサービス業みたいな地域連携でいいの？
- 教育の現場というのを履き違えている。親が何でも手出しすればいいというものではない。学校で暮らしている先生と子どもで、できる範囲で草むしりすればいい。
- 親の方も、P T Aに参加するより、ボランティアに参加するほうが人気がある。
- 子どもの教育を考えるのがP T Aであって、花を植えるのがP T Aではない。
- 今、地域のボランティアを入れすぎ。一線は引くべきだと思う。フラワーボランティアが入ってきて、校庭に花壇を作って、子どもたちが歩く空間がなくなってしまう！ 学校は地域に開かれたというイメージを作りたいから、ボランティアをどんどん入れたがるけど、学校は子どもの場所。
- 校長の思惑とその時のP T A役員の思惑が一致して、「学校をきれいにしましょう」と。私が「そんなことしないでいい」と言うと、「穏便に学校と仲良くしたほうが、子どものためになる」と言うんですよ。
- 管理職とP T A役員や地域の人がつながって、そういうことをしているけれど、現場の先生方はどう思っているのか？

- P T Aの役員が大きな権限を持っていると勘違いしている人が多い。
- 役員は縁の下の力持ち。皆がうまくP T Aの活動をできるようにセッティングしてあげるだけ。お世話係のようなもの。
- 会員も役員自身も履き違えている。連Pも履き違えている。校長も！ 皆が履き違えている中で、一緒になって、履き違えた学校の開き方をして、子どものことが抜けてしまっている。
- 何のために学校を開くのか？ 子どもたちがどこへ行っても、居心地よく育つことができる、そのために地域や保護者や先生たちが力を合わせる。そのための開かれた学校づくり。その根本が抜け落ちている。
- 戦後の民主的な学校運営、民主的な教育というのがその大前提にあったはず。一部の人間で運営されるのではなく、皆で学校を作り上げていこうということでP T Aもできた。
- それがなくて、親が悩んでいるときに個別にどこかへ持っていかなければならない。先生に言ってもらちが明かなくて、校長のところへ行き、それでもダメなら教育委員会へと。それが繰り返されると、先生・校長を抜きにして一気に教育委員会へ持ち込むようになってしまう。